

土・まち・みどり

通信第29号

2007.10.30

発行 土とみどりを守る会

連絡先 3718-8558 (柳島)

CONTENTS ◆奥沢まちめぐり ◆おくさわ今と昔 ◆大平農園・大平邸を訪ねる ◆グリーンサムのお庭拝見
◆おくさわのアート ◆会からのお知らせ



ねこじゃらし公園を訪ねる

当日は曇り空から時折雨が落ちてくる天気でしたが決行をきめました。神社には36名もの方が集まって下さり賑やかに出発しました。まず最初の目的地は浄真寺の墓地に隣接するねこじゃらし公園です。此処は以前は資材置場で草が茂った荒れた場所だったそうですが、地域の方々が区と話し合って遊具の無い公園を造成したのです。子どもたちが草原を駆け廻り、水遊びもする楽しい広場は「グループねこじゃらし」の方々の清掃や管理によって美しく保たれています。メンバーは6グループにわかれ清掃・草刈り・花壇の手入れなど各グループが週毎に担当しています。地域で公園を育てていこうという趣旨で広報ねこじゃらしも毎月(1月を除く)発行しています。お話を下さった白勢見和子さんは、公園を作る運動の始まりから支えて来られた方で、この日も私達の到着迄にビニール袋一杯のゴミを拾っていらっしゃいました。

—大平農園の記事は3面にあります—



秋のつとえレポート 奥沢まちめぐり

富田通雄アトリエサロンを訪ねる

尾山台の踏切を渡って奥沢に戻り、最後の目的地富田通雄アトリエサロンに到着。ここには透明水彩一筋に書き続けられた富田通雄さんの作品が、生前のアトリエに常設展示されています。御長男の雅雄さんのお話では、画伯は水彩画家として昭和初期の若い頃から認められ、作品は国立近代美術館の8点を始め方々の美術館に所蔵されているそうです。1年毎に展示を替え今年には1963年頃のヨーロッパの風景が並んでいます。絵からやさしい風が吹き和やかな空気に包まれているような気分になりました。なおこの美術館にお出掛けになる時はいつでも御予定の日をご連絡下さい、お待ちしております(3701-6998)とのことでした。



時折の小雨に傘をさしながら3時間のまちめぐりは九品仏駅で解散、行く先々で心に残るお話を聞き、芸術にも触れた楽しい散歩でした。

(柳島)



おくさわ今と昔

桜の木と柿の木と

奥沢4丁目 鶴原 典子

近所のOさんが中学生の頃には今の八幡中学の前には大きな九品仏の池があってボートが浮かび、春にはそれを取り巻くように桜が咲いてそれはすばらしいところだったそうです。私が思い出すのも今の環状八号線が桜並木だった光景で、以前は本当にどこにでも桜の木がありました。

特に昭和40年代に、八幡小学校の新生児に一本ずつ配られた桜の苗が、子供たちの成長と共にそれぞれのお庭で、幹を伸ばし枝を広げて、約20年もたつと桜の大木が奥沢の住宅地のあちこちで見事な花をつけ、胸がふくらむような気持ちで見上げたものでした。

昭和40年の初め、私たちは1才と2才と生まれたばかりの3人の男の子と共に奥沢の夫の実家に住むようになりました。鶴原の母が小さなアパートで3人の子供を育てる私たちのことを心配して庭先を整理して、その頃売り出されたばかりの小さなプレハブ住宅を建てることを提案してくれたのでした。昭和の初めに、このあたりが売り出された頃は、一区画200坪くらいだったそうで、まだこの家も庭が広く色々な樹木が家を包むように植わっていたのです。

奥沢の家は、以前はOさんのご両親の新婚時代のお住まいで、玄関の横に天井の高いマントルピースつきの洋間がある他は全部和室の平屋。玄関脇の明り取り窓にはまった「馬に乗るジャンヌダルク」のステンドグラスがおしゃれでした。

当時Oさんとお母様はうちと同じような建て方の北隣の家に住んでおられました。そちらのお玄関のステンドグラスは、竪琴の形になっていました。O家は回りに沢山の土地を持っておられて、道路を隔てた東隣は中が見通せないほど椿や山茶花などが茂った雑木林のように見えたが奥にはジャガイモなどの畑もあったそうです。秋には甘い実を枝がしなるほどつける柿の木がOさんの畑にも母屋のお庭にも何本もあって、奥沢に来てからも4人5人と増えていくうちの子供たちのためにOさんのお母様が一本の大木の柿の実を全部取りなさいと言って下さったこともありました。

桜も柿の木も、そこにすんでいらした方々と一緒にすこしづつ消えてしまいました。秋になって葉を落とし始めた我が家のけやきもこれからどうなっていくのかなと考えます。

このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方と新しく移ってきた方々など、毎回2人の住民の方が登場し、このまちにちなんだエピソードを語っていただきます。



季節を感じる街並み

奥沢2丁目 牧 範子

金木犀の香りが風と共に漂い秋を感じるこの頃です。私は結婚後間もなく主人に伴い海外生活を送り、その後主人の実家がある奥沢に住み三年が経ちました。長女が4カ月の頃からここ奥沢に住み、娘と共に奥沢の街並みを眺めて参りました。暮らし始めて感じたことは自由が丘に近い場所でありながら緑豊かで静かな環境であるということです。娘をベビーカーに乗せていた頃は毎日のように散歩をしておりました。特に私は地元ではないので道を覚える為にも毎日違う道を歩いていました。どの道を歩いていても可愛い草花や木々の緑を見ることができ、心が和み季節を目と鼻で楽しむことができます。また家の周りを綺麗にされ皆様がこの街並みを守っていらっしゃる心が伝わってきます。

住み始めた当時4カ月だった娘も3歳になり今は幼稚園に通っております。娘と歩きながらご近所から覗く草花や木々を眺め楽しませて頂いております。この夏娘は多くのお宅の庭から覗く「百日紅(さるすべり)」の名前を覚えました。ピンク色だけでなく白色もあるということもわかったようです。最初の頃は「おさるがすべり」と言っていたのですが、いつの間にかちゃんと「さるすべり」と言えるようになっていました。

奥沢は住めば住むほどすばらしい所だと感じております。皆様のお庭のようにはいきませんが自宅にも娘と少しずつ季節の花を植え、育てていきたいと思っております。これからも暖かいご近所の方々との触れ合いを大切にしながら(今は助けて頂いてばかりですが...)この緑豊かな奥沢で家族が幸せに暮らしていけたらと思っております。

●このシリーズへの御投稿をお待ちしております。お話をお聞かせ下さる方にはうかがいに参ります。

大平農園・大平邸を訪ねる

ねこじゃらし公園を出て駒八通りを渡り、次に向ったのは大平農園です。此処は無農薬有機栽培のさきがけとなった処ですが、農場主任の波多野さんのお話で、ビニールハウス野菜栽培の発祥の地である事も知りました。今は常識になっている栽培法ですが、当時工夫を重ねて先代大平先生が考案された農法で、農家の生活を楽にするために特許もとらず全国に広められたのです。波多野さんは先代の頃の研修生で、3年前から農場に戻っている方です。

有機栽培は鳥や蛙・バッタやカマキリなどが害虫を食べてくれて、化学肥料を使わず堆肥で栽培します。出来た野菜は見栄えは悪いが非常においしいのです。鳥たちの助けを借りても間に合わず虫とりは大変な作業で、今育てているキャベツも暮までに5~6回の手間が必要とのこと。ボランティアの人々が手を貸して下さるそうです。

此処でとれた野菜は、群馬や千葉の無農薬農家の協力を得て、若葉会という組織の会員に頒布しています。

「今年は畠が乾燥して野菜が出来にくく、虫を食べてくれる益虫も減っています。こういう状況から地球環境の悪化に危機感を持っています。日本は食糧の自給率が40%弱で輸入に頼っているのに、他の農業国も早魃などで減収に傾きバイオ燃料のこともあり、将来の日本の食糧は非常に危ないと大変に心配しています。農家がそれなりに生活していける農政を行ってくれないと、農家はますます減り子や孫たちの時代の食糧事情は大変厳しいと思います。」と話されました。

畠の中央にある池は蛙のすみかと渇水期の灌水のためのもので、今ボランティアの手でポンプを修復中でした。

農園を出て少し歩くとこんもりした緑が見えてきます。大平さんのお宅はその緑の林の中です。お住居に伺って大平夫人からお話を聞きました。

この大平家は奥沢城の大平出羽守に繋がる分家で、400年ぐらい農家として生活してきました。奥沢城の周りは湿地でしたが、昭和初期の耕地整理の時に田圃を埋めて畑地にしたので、野菜づくりをするようになりました。

東急の開発で住宅が建ち畠が減って周囲は変わってもこの家は変わらず、樹齢400年になる家敷周りの木を大切に暮らしてきました。――一枚板の豪華な大テーブルも太い大黒柱もお庭の樫で作られたみごとなものでした――

父は野菜づくりを一生懸命やっていたのですが戦中戦後の食糧難時代には陸稲や薩摩芋を作り、いかに増産するか研究会をつくって大勢の人を集めて研究を重ねました。その後食糧が足りてきたので、野菜をより早く収穫して高く売るために作り方を研究し、晩霜をよける方策として竹ヒゴを半円形に立ててその上に油紙を貼りトンネルを作って、その中でトマト・キウリを栽培する農法を考えました。更に改良を研究するうちにビニールというすばらしいものが出来、トンネル栽培はたちまち日本中に広まりました。

後で聞けば戦時中に化学兵器を作った工場が切替えて農薬を生産したそうですが、虫を殺すというので濃度を高くしてDDT、BHCそして一番こわいパラシオンまで使いました。改良した大型のビニールハウスの中で不完全な防備で殺虫剤を使ったために、父はめまいやはきけが治まらず、耳も目も悪くなり胃癌でなくなりました。

その後40年、一切農薬も化学肥料を使わない昔の農業に切り替えて堆肥で栽培しています。有機栽培は最初は収穫が無く、梅雨時にはトマトにバクテリアが繁殖して急に腐ったりしたが、株の間隔を多くして風通しを良くするなど研究を重ねて成功しました。

しかし母は毎日の農作業の結果リュウマチになり乳癌を発症して他界しました。その後娘も癌で亡くし、夫も目と耳が悪くなりました。これ程に害を及ぼす農薬ですが、今は以前より規制が厳しくなって戦後の恐ろしい農薬は使わなくなっているもののまだまだ使われています。消費者はみかけのいいものを求めず、農家は安全なものを提供していく、この努力が無くては状況はますます悪くなってしまいます。

今はご主人が病床にあり、ご看護もお仕事も大変な事と思いますが「挫けそうな時に多くの方々に支えられ、波多野さん・ボランティアの方々のお力によってようやく今の形になってきました。本当に感謝しています。」と話されました。お話を通して大平さんの魅力溢れるお人柄にふれ、にこやかな笑顔のやさしい語り口から、農薬のおそろしさがひしひしと伝わってきました。(柳島)



グリーンサムのお庭拝見 Vol.17

奥沢駅を背中にして東急線に沿って歩くと右に豊川稲荷、前方にこんもりとした緑と「火の見やぐら跡」と書かれた石碑が目に入る。今回は「家が見えない家」と新聞で紹介された5丁目6番地の中村家を訪問しました。

植木と花を楽しむために買った土地に家を建てたのは昭和30年。その時からの樹木はシダレ緑梅・エゾ椿・槇・紅葉・柿である。周りに夏蜜柑・アケビ・レモン・紅梅と白梅・松・ユスラウメ・ツルウメモドキ・白蓮・葡萄・プラム等々。家の脇に紫の花をつけた布袋草・クワイ・蓮と黄色のメダカと蛙が大鉢の中で育っている。井戸水が管を通り爽やかな水音を響かせて鉢に注がれる。

昭和40年頃、東急本社の許可を得て目の前の線路沿いに毎年春は菜の花・秋はオレンジ色のコスモス

を育て咲かせている。土手には平成元年に植えた桜が10本。2代目の桜だが春には見事に咲き誇る。その桜の間には姫リンゴ・リンゴ・迎春花・蜜柑・サラサ木蓮・カラス木蓮・野バラ・ネムノキ・^{ナツメ}棗・大名竹・布袋竹・黄金竹・桃と柿と釣竿になる黒竹などが100メートル続くのである。中村さんの静かな説明を聞きながら歩いているとやさしい気持ちになっている自分に気がつく。井戸水が流れている池に鯉が泳ぎ水槽では金魚の小さい子供達が賑やかに泳ぐ。2階の軒下に蜜蜂の巣。水やりに2時間以上かかる1258個の植木鉢。柿もアケビもプラムもそして手入れに2日かかる松も屋根まで伸びている。

心が疲れたら訪れてみて下さい。手入れをしている中村さんの姿と樹木達に会うとききっと元気になりますよ。私も元気をもらいました。(遠藤)

おくさわのアート - 3 -

グリーンマップに表示した地域の美術館・ギャラリーを順次訪問して紹介します(毛利)

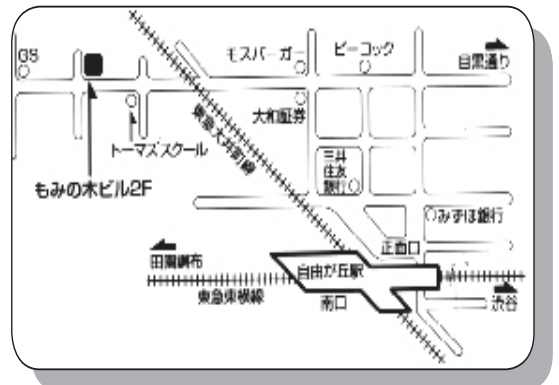
もみの木 画廊

世田谷区奥沢6-33-14 もみの木ビル201
TEL 03-3705-6511 FAX 03-3705-2515
<http://home.catv.ne.jp/kk/momonoki/>
AM. 11:00 ~ PM 7:00



ビルの中央に聳えるシンボルツリーの名を冠したもみの木画廊は、開館して18年になります。ここはジャンルを問わず、老若に関わらず心根の若い、チャレンジ精神のある人が発表の場・挑戦の場として使い、自らのステップアップをはかるために提供されている画廊です。エスカレーターを上って右手に、程よいスペースの空間が拡がり、いつも展覧会が開かれています。

此处は展覧会以外にも種々のイベントを企画しています。今年1月には地元出身の古今亭菊六さんの落語を、来る12月22日にはソプラノとカルテットを企画しているそうです。どうぞお出掛けください。又宮本三郎美術館と連携で小学生(3年以上)の絵画を展示したり、西瓜割りや餅つき等も行っており地域コミュニティを大切にしていきたいと話していらっしゃいました。



会からのお知らせ

●12月1日(土)午後1時30分から奥沢東地区会館で晩秋のつどいを開きます。奥沢の昔をたどるお話と、フルーツ演奏を予定しています。どうぞお出掛け下さい。

●世田谷区地域風景資産の第2回選定の活動が進んでいます。土とみどりを守る会では、前回の「大ケヤキのある散歩道」に続き、「奥沢海軍村ゆかりの風景」を申請しました。奥沢の歴史を更に深く調べ、緑豊かな海軍村らしい風景を、海軍村の旧家を象徴として共有していきたいと思っております。

●奥沢に古くからお住まいのご年輩の方々に昔のまちの様子を教えて頂いて、昭和のごく初期の商店街や海軍村の様子が少しずつ浮かび上がってきました。壁新聞やつどい・紙面で発表していきますが、昔の写真・思い出すことなど、どうぞご連絡をお願いします(19年度の区の「地域コミュニティ活性化支援事業」助成を受けています)

土とみどりを守る会 連絡先

世田谷区奥沢 2-19-9 長瀬雅義 5729-0126
世田谷区奥沢 2-41-2 柳島尚子 3718-8558